

## 事例9 国有林野のフィールドを活用した地域林政アドバイザーの養成

(九州森林管理局)



- 熊本県熊本市(くまもとし)小萩(おはぎ)国有林
- 造林作業の現地研修の様子

平成31年4月から開始された森林経営管理制度では、経営管理が行われていない森林について、市町村が森林所有者の委託を受け経営管理することや林業経営者に再委託する仕組みとなっており、市町村が重要な役割を担っています。

そうした中で、市町村によっては専門性のある林務担当職員がいないなど体制の強化が課題であり、林野庁では、一定の知識等を持った地域林政アドバイザーの活用を推進しています。

九州森林管理局では、熊本県が実施する研修に協力する形で地域林政アドバイザーの養成に取り組んでいます。

令和2年度には、地域林政アドバイザー候補者等を対象として、森林経営管理制度を運用するに当たり参考となるよう、熊本森林管理署管内の実際の作業現場を活用して、森林作業道の作設の留意点や造林作業の低コスト化についての現地研修を実施しました。あわせて、完了検査等への無人航空機の活用等の最近の技術動向について研修を実施しました。

今後も、森林経営管理制度が円滑に推進されるように、地元自治体と連携しながら、国有林野事業の技術・人材・フィールドを活用しつつ、市町村の森林・林業行政の支援に取り組んでいくこととしています。